

年間第 6 主日 (マタイ 5:17-37)

イエスは複雑に見える問題に決着を付けてくださる



イエス様がおいでになった時代、律法にはすでに解釈が加わっていて、特に律法の専門家たちは解釈に沿って律法を守ることに汲々としていました。さらに悪いことに、その律法をあまり知らない一般の民衆に対しては、律法の解釈も知らないし、律法をすべて守ることもできない人々、つまり救いから遠く離れた人と見なしていました。その中でも「罪人」と決めつけられた人々はなおさらでした。

そんな中で、イエス様は律法学者やファリサイ派の人々に、「わたしが来たのは律法や預言者を廃止するためだ、と思ってはならない。廃止するためではなく、完成するためである」(5・17)とおっしゃいます。イエス様が、律法の一点一画まで、それを授けてくださった神の思いを吹き込んで、決着を付けてくださったのです。

あとで読み返してくださると「なるほど」と思えることですが、イエス様は朗読された箇所の中で、繰り返し強いことばで「神の思いはこうだよ」と説いておられます。それがよく分かるのが、「はっきり言うておく」とか「しかし、わたしは言うておく」ということばです。当時の解釈に振り回されていたすべての人に、曇りのない説明をしてくださったのです。

「これらの掟をあなたがたに授けた神は、このような思いで授けたのだよ。」これが言えるのは人となられた神、イエス・キリストお一人だけです。神の思いを説明できる人。神がどのような意図でこれらの掟を授けたかを完全に理解しているのはイエス・キリストただ一人です。すべてにけりを付けるかのように、「しかし、わたしは言うておく」と繰り返します。

生活が一貫して、神の思いに沿っている人は、単純で、真っ直ぐな生活になっていきます。もちろんそれは、簡単なことではないでしょうが、「できないことではないのだな」ということくらいはここで説明はできます。一貫した思いがあれば、複雑に思えるものも単純で明確な意図が感じられるものに変貌します。

たとえば、空き缶を5万個集めてきたとしましょう。「これは何？」はじめは誰も理解できませんが、「一つの考え」の元にそれらの空き缶を並べ替えれば、だれもが分かるモノに変身します。今日紹介するのは静岡県沼津市の高校生が集めた5万個の空き缶で作った作品です。一つの考えのもとに並べられて、見事な作品に変わりました。

イエス様も、一見バラバラで、解釈も難しい掟を、本来授けてくださった父なる神の思いのもとに、明快な答えで授け返していただきました。イエス様から神の思いを吹き込まれれば、どんな難しい問題にも決着が付きます。私たちはそのことを固く信じるべきです。

「神様はこの世界に何を望んでいるのか」そこまで大きくしなくても、「神様はこの小教区に何を望んでいるのか」誰かを通して神の思い

全能の神よ、聖なる福音をふさわしく告げるため、わたしの心と口を清めてください。

が吹き込まれれば、答えは見つかります。どこに向かうべきか見えてきます。イエス様は当時の人々についてだけでなく、現代の私たちにも、ご自身がお選びになった方々を通して、どう生きていくべきかを示そうとしておられるのです。

四旬節第1主日(マタイ 4:1-11)

福音のことばによって、わたしたちが罪から清められますように。